

# 寅さん歩 その19

## バーチャルウォークで

### 聖火を新国立競技場へ-14



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」バーチャルウォーク コーナーに八柳修之さんのバーチャルウォーク（国内版） 歩いて健康バーチャルウォークのすすめ「沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース（仮想）1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は8~10km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。バーチャルウォークはリハビリの散歩の距離を累計しバーチャルコースのゴールに向かう、すぐろくのようなもので「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ、前向きな気持ちにさせる取り組みです。

先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れて通過した県の思い出や、映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

2018年(平成30年)10月1日沖縄県最北端の辺戸岬を出発した聖火は沖縄県那覇市から鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県、山口県、広島県、兵庫県、大阪府、京都府、滋賀県、三重県を経て愛知県に入りました。2019年(令和元年)9月10日スタートから1300kmの地点に到着です。5月18日バーチャル&リアル東海道五十三次で日本橋を出立し、京へ向かう八柳修之さんとは桑名宿から七里の渡しを渡った宮宿で会うことが出来ました。名物の「草履味噌カツ」（写真下左）と「ういろう」（写真下右）を食べながら、お互いの健闘を称え合いました。



現在のペースで行くと八柳さんは10月中に、寅次郎は12月中にバーチャルウォークゴールの見込みです。

世の中では12月に映画「男はつらいよ」の公開50周年を記念した第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されます。東京2020オリンピックの全国聖火リレーが2020年3月にスタートします。八柳さんとこれらのイベントを盛り上げるバーチャルウォークの企画について話し合いました。ご期待ください。

八柳さんの話では7月26日京にゴールのFWA会員片山忠夫さんは8月10日東下りで京をスタートしたとのこと。どこかで追い抜かれますが、寅次郎も江戸を目指します。

### 〔愛知県岡崎市～静岡県浜松市〕

1301 K m～1400 K m



写真上は東海道五十三次の広重浮世絵で左は岡崎宿（矢作橋）、右は濱松宿です。

寅次郎は1976年(昭和51年)から3年間を静岡県民として富士宮市に住みました。毎日、雄大な富士山を眺めながら生活をしていました。

ウォーキングでの静岡県訪問は伊豆でのウォーキング大会ですので、次の章でお話しします。

ここでは毎年、宇都宮市と餃子日本一を争っている遠州浜松餃子を食べればしご休憩ください。

映画の寅さんも静岡県浜松には2作品で訪れています。

1971年(昭和46年)1月公開の第6作「男はつらいよ 純情編」のラストシーンで浜名湖を訪ねています。

浜名湖舘山寺港は寅さんの商売の場の一つのようにです。



寅さん、旅先で夫に失望して故郷の五島へ帰る親子連れを家まで送ります。父親の「故郷はないと思え」を聞き自分も故郷柴又へ帰ると、寅さんの部屋は夫婦喧嘩で家出したおばちゃんの遠縁夕子（若尾文子）に貸していました。寅さん夕子に一目ぼれでも想いを打ち明けられずに恋煩いの床につきます。夕子の一言で元気になりますが、遠回しの夕子の断りを誤解する始末。夕子の旦那（作家）が迎えに来ていつものように寅さんの恋は幕。夜の柴又駅で妹さくらとの別れで電車の窓越しに言う寅さんの「故郷とは・・・」はわからずじまいでした。いつものお正月に旅先から届く寅さんの年賀状のアップと浜名湖で口上を切る初商売の寅さんの姿がラストシーンです。ふうてんの寅さんが「故郷」について思う作品でした。



1985年（昭和60年）12月公開の第36作「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」のラストシーンでも浜名湖を訪れています。裏の印刷会社のタコ社長の娘あけみが結婚生活に疲れて家出。タコ社長、尋ね人でTV出演、下田にいると連絡あり。そこに寅さんが帰ってきて、一肌脱ぐ寅さんです。あけみと出会い、どこか島に行きたいと言うあけみの言葉で式根島へ向かいます。船で同窓会で島へ帰る11名に加わり、「二十四の瞳」とはしゃぐ寅さんです。島では美人で独身の真知子先生（栗原小巻）が出迎え、寅さんの恋が始まります。人妻のあけみは民宿の二代目に求婚され、若者を傷つけたと寅さんを連れて柴又へ戻ります。ため息の毎日の寅さんの元へ真知子先生が現れ元気を取り戻しますが、真知子先生から亡き友人の子持ちからプロポーズされたらと相談されます。自分の胸の内も明かさず賛成して調布飛行場から式根島に戻る真知子先生を見送る寅さんです。ラストシーンは正月に浜名湖で商売する寅さん、遊覧船の船長になっていた式根島の同窓会での仲間に再会します。渡世人稼業の寅さんのやりきれない思い、人妻のあけみの戸惑い、「恋は男も女もつらいよ！」を感じさせる作品です。



スタートから1430Km地点に到着したら、次のコースを紹介します。  
途中経過は「寅さん歩」の中でお知らせします。

今回は 官公庁の食堂めぐり-26 足立区役所 です。

平野 寅次郎 拝